

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551)6215~9  
ロシア東欧経済研究所 購読料 送料共前納 ・ 1ヵ月 1,200円 1ヵ年 14,000円

平成6年7月25日

NO.961

## ウクライナ大統領選挙結果について

### はじめに

ウクライナ独立後初の大統領選挙が、6月26日、7月10日の2回にわたり行われた。第1回目の投票では7人の候補者の争いとなったが、過半数の票を得た者がなく、決戦投票へ持ち越された。現職のL. クラフチュク大統領と前首相L. クチマの一騎打ちは、クチマに軍配があがった。第1回目の投票では、クラフチュクが約40%の得票、クチマは約35%の得票と、クラフチュクが優勢であったが、第2回目ではクラフチュクが約45%、クチマが約52%で逆転するという接戦であった。

クチマは、ウクライナが経済危機から脱出するためには、経済分野を中心にロシアとの関係強化は不可欠と訴え、ロシア系住民が多くロシアとの経済関係もより緊密な東部および南部の地方を中心に票を集めた。

一方のクラフチュクは、1991年12月の大統領選で初代大統領に選ばれて以来、曲がりなりにも独立国ウクライナを支えてきた。今回の選挙でも、決戦投票で敗れはしたが、民族組織の強い西部地方では90%以上の支持を集めた選挙区もあった。

以上のように、今回の選挙では、東西の住民意識の違いが顕著に示される結果